

MELON 情報紙

Miyagi Environmental Life Out-reach Network



2019年4月★第129号

勾当台公園で薪ストーブ、 ペレットストーブに親しんでももらいました！

「木を使って森を元気に！
薪ストーブ・ペレットストーブ
展示・体験フェスタ」
日 時：2月2日（土）
10：00～15：00
場 所：勾当台公園市民広場
参加者：600名

毎年恒例になりつつある薪ストーブ・ペレットストーブの体験イベントを今年も行いました！

例年通り仙台近郊の薪ストーブ・ペレットストーブの多くの販売店に参加いただき、ストーブの展示・燃焼の実演とピザや豚汁などの試食、焼き芋や焼き菓子の販売などを行いました。今年は会場の一角でチェーンソーアートの展示・実演も行い、チェーンソーだけで丸太が見る見る鳥の形に変わっていくさまに来場者はビックリ！むすび丸などゆるキャラも登場し、楽しい冬の1日となりました！（2面に続く）



チェーンソーアートの実演

薪ストーブの説明を聞く来場者



むすび丸もチェーンソーで丸太切りに挑戦！

MELONとは 公益財団法人 みやぎ・環境とくらし・ネットワーク ― 通称「MELON」。
1992年の地球サミットをきっかけに翌'93年に誕生しました。緑と水と食をとおして環境とくらしを考え、地域と地球環境に寄与しようと多くの市民、学者、知識人、協同組合、企業、団体で作られたNGO（非政府組織）です。地域と地球環境を守るため1人ひとりの参加と協力をつなぎます。

MELON 会員募集

MELONの活動は会員の会費で支えられています。

MELON会員特典

- MELON主催イベントに会員割引で参加できます。
 - ごみや水、緑や食、自然エネルギーや企業の環境の取り組みなどをテーマに勉強会や見学会を行う部会に参加できます。
 - ボランティアや部会に参加することにボランティアポイントが1個もらえ、5個集まると1,000円分のMELON商品券と交換できます。
 - MELONの活動や環境情報を掲載した情報紙をお届けします。
 - メールアドレス登録で、会員同士の情報交換ができるメーリングリストに登録できます。
- ～入会希望の方は事務局までお問合せください～

Index

- P1 勾当台公園で薪ストーブ、ペレットストーブに親しんでももらいました！
- P2 多彩なブースで薪ストーブ・ペレットストーブの良さを伝えました♪
／海洋ごみ、私たちができることは何だろうか？
- P3 電力自由化セミナー
～東北の自然エネルギーを家庭で活用しよう！～
／自然エネルギー 100%に向けて動き出した世界
～宮城で自然エネルギーを広めるには？～報告
- P4 仙臺農塾Vol.7 大人の食育プロジェクト
／かんきょう見聞記「ブタの悲哀、イノシシの困惑」
- P5 協同組合からのお知らせ
／目指せ100人！環境リレートーク 早川昌子さん
- P6 ストップ温暖化センターみやぎ通信
- P7 ストップ温暖化センターみやぎ通信
／MELONcafe ブチ講座
- P8 トピックス／イベント一覧／編集後記

多彩なブースで 薪ストーブ・ペレットストーブの良さを伝えました♪

薪割りの体験コーナーや木工品の展示販売、薪ストーブ・ペレットストーブ用のグッズ販売などもあり、多彩なブースに多くの人が訪れました。



大崎市マスコットのバタ崎さんも
展示の木工品に興味津々！



チェーンソーアートと記念撮影

薪やペレットは木質バイオマス資源といわれ、空気中の二酸化炭素を吸収して育った森の木を活用するものです。もちろん燃やせば二酸化炭素が発生しますが、木が育つ過程で吸収した二酸化炭素を放出するだけなので、空気中の二酸化炭素量としてはプラスマイナスゼロということになり、気候変動の防止に寄与するものです。このイベントをきっかけに少しでも多くの人が山や木の大切さを理解して活用することにつながれば嬉しいと思います。

海洋ごみ、私たちができることは何だろう？

「プラスチックゴミのゆくえ～海を汚してるのはだあれ？」

日 時：2月10日（日）13：30～16：10

場 所：仙台市エル・パーク仙台 セミナーホール1, 2

参加者：66名

講 師：山田一裕さん（東北工業大学 教授）

貴田喜一さん（荒浜復興推進協議会「植物再生部」）

菅原正徳さん

（広瀬川1万人プロジェクト実行委員会事務局長）

4R推進部会

4R推進部会では近年社会的に大きく注目されている、海洋を漂流する「海洋ごみ」や「マイクロプラスチック」について海岸での調査や情報収集を行ってきました。この問題は私たちの生活の中にあるプラスチック製品の増加も主な要因となっています。そこで、一般市民の方にも「海洋ごみ」について知ってもらうため、セミナーを開催！山田先生から「海洋ごみ」による水環境の汚染や生物たちへの影響などをお話してもらいました。

また、実際に川沿いや海沿いでのごみ問題に向き合っている方達からお話を聞くことができました。その中でも貴田さんの「昔は流れ着いたごみは便利な宝物だった。それが『ごみ』

になってしまうのは非常に残念」という言葉は来場者の皆さんも印象に残ったかと思います。

海洋ごみの現状を知った私たちに何ができるのか、何をすべきなのかについても4R推進部会よりお話ししました。やはり「リデュース」「リユース」「リサイクル」そして「リフューズ（断る）」が重要！皆さんも今一度自身の生活にあるプラスチック製品を見直していか使用を控えるかを考えてみませんか？

セミナー内で菅原さんから4月20日に開催される広瀬川流域一斉清掃について紹介していただきました。そして、今回講師となった方達もその清掃活動に参加することが決定！MELONでも参加者を募集しておりますので詳しくはP.8をチェックしてください。

セミナー終了後は、学生環境サークル「海辺のたからもの」による海洋ごみを使ったかわいいアクセサリ作りも実施しましたよ。



会場は満員！皆さんの関心の高さが窺えます



会場の後ろにはブースコーナーも



海洋ごみを使った
アクセサリ

第2回 利用者の声も聞ける！ 電力自由化セミナー ～東北の自然エネルギーを家庭で活用しよう！～

日 時：2月24日（日）13：00～15：30
会 場：エル・パーク仙台 セミナーホール
講 師：浦井彰さん（エネシフみやぎ）
矢野敏昭さん（みやぎ生活協同組合）
大滝満雄さん（生活協同組合あいコープみやぎ）
相良元章さん（株式会社アポロガス）
参加者：31名

一般家庭でも自由に電力会社を選べるようになった「電力自由化」から2年。今回は新規で参入された小売業者や実際に電力会社を変更された消費者が事例紹介をしました。

浦井さんによると契約先の切替え件数は東北管内で約12万件（約2.3%：2017年3月末時点）。変更しない理由の多くには、誤解も多いそうです。例えば、「電力会社によって電気の質や停電の頻度が変わるのではないか→どの電力会社に変えても電気の質や停電の頻度は同じ」「変更する際、現在の電力会社と変更先の電力会社両方と手続きしないといけないのではないか→原則変更先の電力会社に申し出るだけで大丈夫」など、事実を教えてくださいました。

いました。再生可能エネルギーを増やすために私たちができることとして、「電気（購入先会社）を選ぶ」「自分で再エネを作る（ソーラー発電）」ことなどが紹介されました。

わたしたちの暮らしと環境問題に大きく関わる「電力」。選び方次第で、自然エネルギーの普及拡大や地球温暖化防止に大きく貢献できることが期待されます。

変更を検討するには、「料金比較サイトをチェックする」「お住まいのエリアの電力会社情報を確認する」等から始めてみると良いそうです。

■電力自由化に関する相談は、「経済産業局 電力・ガス取引監視等委員会 相談窓口」へご相談ください。
03-3501-5725（平日9：30～12：00、13：00～18：30）
■再エネを中心とした電力会社一覧は、「パワーシフトキャンペーン」WEBサイトをご覧ください。
<http://power-shift.org/>（「パワーシフト」で検索）



疑問点など、たくさんの質問がありました

自然エネルギー 100%に向けて動き出した世界 ～宮城で自然エネルギーを広めるには？～報告

日 時：1月26日（土）13：30～15：30
会 場：TKP 仙台南町通カンファレンスセンター
カンファレンスルーム7D
講 師：古屋将太さん（環境エネルギー政策研究所）
金上孝さん（ひっぽ電力株式会社）
浦井彰さん（みやぎ地域エネルギー合同会社）
大滝満雄さん（生活協同組合あいコープみやぎ）
主 催：Climate Action Network Japan（CAN-Japan）
共 催：公益財団法人みやぎ・環境とくらし・ネットワーク（MELON）
参加者：55名

2015年にパリ協定が採択されて以降、脱炭素社会実現に向けた世界の動きは加速度を増しています。中でも使用するエネルギーの全てを自然エネルギーで賄う「自然エネルギー 100%」の目標を掲げて取り組みを推進する自治体や企業等の数は増え続けています。

まず、環境エネルギー政策研究所の古屋さんから世界各地の自然エネルギーの事例を紹介していただきました。すでに世界で50か国以上、数百都市や地域が自然エネルギー 100%の目標を掲げています。日本はまだ、行政区でいうと福島県、長野県、宝塚市しか自然エ

ネルギー 100%を宣言していない状況です。隣の福島県では2040年までに一次エネルギー※需要量を100%自然エネルギーにすると目標を定めています。宮城県内では、丸森町の筆甫で、東日本大震災をきっかけに廃校の校庭に太陽光パネルを設置し、「ひっぽ復興発電所」と名付け、年間6万5千kwh発電し、全量「パルシステムでんき」に売電し利益を地域づくりにつなげています。他にみやぎ地域エネルギー合同会社があいコープみやぎの施設の屋根に太陽光発電パネルを設置した事例を紹介してもらいました。今回のセミナーで刺激を受けた行政や企業が、地域の特徴を生かした自然エネルギー施設の建設を進めることで地球温暖化防止につながると思います。



世界の自然エネルギーの普及速度にびっくり！

※一次エネルギーとは、自然界から得られた変換加工しないエネルギー。石油や石炭、天然ガス、ウランのような採掘資源から太陽光、水力、風力といった再生可能エネルギー、さらには薪や木炭なども含まれる。

仙臺農塾

大人の食育プロジェクト

Vol.7 第2回「井土の湧き水が育むネギ物語」

日 時：2月27日（水）19：00～21：00

ゲ ス ト：鈴木保則さん

（農事組合法人 井土生産組合 代表理事）

会 場：居酒屋 仙きち

（青葉区国分町3-1-15 IINEビル 1・2F）

参加者数：23名

仙台市若林区の沿岸部にある井土生産組合は、震災を乗り越えてきた15名の同志が結集して立ち上げた団体です。今回、優れた功績をあげた農家や団体におくられる「日本農業賞」の大賞にも選ばれました。

組合の皆さんが愛情をたっぷり注いで生産したネギをふんだんに使った料理をいただきながら、復興や地域のこと、野菜作りのことなどお話を伺いました。

井土の真っ直ぐなネギは意図的に曲げておらず、とて

も甘いネギでした。お米は水をはらず直に撒いてコストを削減し、野菜栽培に傾注しているなど、わかりやすくお話ししてくれました。また組合では、毎年ネギ祭りなども開催し、多くの人々が参加され地域の方々の貴重な交流の場となっています。

いつも感謝と笑顔を忘れない鈴木さんと井土の皆さんの周りには、絆の輪が生まれ、とても元気づけられる賑やかな回となりました。



固い絆で結ばれた井土のリーダー鈴木さん



井土のネギがたっぷり入った鴨そば



「ブタの悲哀、イノシシの困惑」

落語篇⑫

桂 三枝「考える豚」

石垣政裕（MELON 理事）

豚コレラによる被害が発生し、殺処分など拡大を防ぐため大変な努力が払われています。この感染では、「おりゃ、天敵のオオカミもいなくなったし、ブヒッ。この頃はテッポウ持った人間もあんまり見なくなったジェイ、ブヒブヒ。ひとつ、雪の少なくなった東北にでも進出してやるかブヒッ！」とわが世の春を謳歌する、ブタの従兄弟のような野生イノシシとの関連が疑われていて、イノシシは「はりゃ??」と困惑しているかもしれません。

わたしが小さい頃は、近所でもあちこちで数頭の豚が飼われていて、親のいうことを聞かないと「豚小屋さ入れっと！」と脅かされたものでした。近頃はわたしたちの食料を効率よく確保していくために、豚肉の生産も集約化され、一つの養豚場で飼育される豚の数も増えてきています。

桂三枝の創作落語「考える豚」（桂三枝大全集 創作落語125撰第29集、キングレコード）を聞いてみましょう。

ある養豚場で、様子のおかしい豚が1頭いました。どうも、エサを食べないで痩せているようなのです。豚仲間がその豚トン吉に尋ねてみると、『豚もおだてりゃ木に登る』『豚に真珠』というように豚は他の家畜や動物に比べて地位が低い」というのです。「おれはどうして豚に生まれてしまったのだろう」と悩んだ挙句、この養豚場を脱出するために、エサを食べずに筋肉を鍛え、ダイエットをしているというのです。飼い主は、大学で調べてもらうことにします。養豚場を脱出できてトン吉は安心したのでしょうか、そこで丸々と太っているではありませんか。さあ、元の養豚場ではトン吉がいなくなった後、どういうわけか他の豚もみんな痩せ始めた……。

たくさんの豚が殺処分される風景をみて、ひとくりに人間の食料工場「養豚場の豚」とみるのではなく、その1頭1頭の豚の悲哀を考えてみることも、わたしたちが食べて生きていく上での大事な考え方が見つかるような気がします。

各協同組合からのお知らせ

MELON の協力団体である各協同組合が取り組んでいる、環境に関する情報をご紹介します。

～みやぎ生活協同組合～

「よみがえれ海岸林～仙台市荒浜地区海岸防災林再生活動 参加者募集」

東日本大震災の津波で失われた荒浜海岸防災林再生の植林に協力してくださる方、集まれ！

日 時：4月20日（土）10：00～12：30

集合場所・時間：仙台市海岸公園センターハウス駐車場 10：00集合
（仙台市若林区荒浜字北官林30）

ア ク セ ス：地下鉄東西線荒井駅下車。荒井駅2番乗り場 市営バス「農業園芸センター経由旧荒浜小学校行」に乗車。「旧荒浜小学校前」下車、徒歩15分。

植 林 場 所：若林区荒浜字北山国有林

募 集 人 数：50人

参 加 費：無料

持参物・服装：飲料、軍手、帽子、雨具、
長靴、暖かい服装、持参で
きる方は穴を掘る道具
（トグワ、スコップ）

申 込 み：ハガキ、FAX、QRコードから生活文化部までお申し込みください。



問い合わせ・申込み先

みやぎ生活文化部

〒981-3194 仙台市泉区八乙女4-2-2

TEL：022-218-3880 FAX：022-218-3663



こちらからも
お申し込みできます



目指せ100人！

環境リレートーク



第72人目の執筆者

早川昌子さん

（NPO法人環境エネルギー
技術研究所／環境省・地球温
暖化防止コミュニケーター）

東日本大震災を経験し、電気の使い方に疑問を持ち、電気をつくることにも興味が湧き始めました。災害への備えてどうすればいいの？原子力発電は必要なの？地球温暖化が進むとなぜダメなの？震災以降、少しずつ考えています。

考えていると知りたいことが出てきます。インターネットで検索してみると、これでもか！というほど大量の情報がヒットします。その中には広告も多く、どこから読み始めればよいのか途方にくらしてしまいます。かといって、専門書を読むのはハードルが高い。そこで、「エナジーカフェ」です。

「エナジーカフェ」は、仙台市の平成30年度事業『杜の都の市民環境教育・学習推進会議「環境社会

実験] 未来プロジェクトin仙台』に採択され、省エネ・創エネのコツをシェアする場として、企画・運営を始めました。去年の夏休みに開催したベランダ発電のDIY講座では、親子参加も多く、ミニ扇風機を回したり、スマホに充電してみたりと、電子工作をしながら学ぶ内容が大好評でした。現在、イベントに参加できない方に向け、「直流ワールドへようこそ！」という小冊子も配布中です。

NPO法人環境エネルギー
技術研究所

TEL：022-795-7391

<http://www.sftte.or.jp>



「エナジーカフェ」で電子工作

… 次号執筆者紹介 …

鈴木圭介さん

（ミライトス株式会社代表取締役）



ストップ温暖化センターみやぎ通信 Vol.84

COP24報告会 in 仙台 「COP24 (カトヴィツェ会議) に参加して」 ～地球温暖化対策に関する世界・日本の動きと個人が取り組めること～

日程：2月9日（土）

場所：仙都会館（仙台市青葉区）

講師：小俣大明さん

（環境省 地球環境局 国際地球温暖化対策担当参事官室 係長）

今回は2018年12月にポーランドのカトヴィツェで開催されたCOP24に参加した環境省の方を迎えて報告会を実施しました。

2018年の異常気象を含む、近年の気候変動の影響から始まり、気候変動問題に対する国際枠組み等の詳しい説明が続きました。特にパリ協定の概要やCOP24の結果も、会議に参加した人ならではの解説がありました。



会場風景

気候変動に対して国際的な取り組みが迫られている中、「脱石炭火力」がキーワードとなっていることを挙げ、更に踏み込んで日本、EUの二酸化炭素の排出量の目標値について提示がありました。



講演者 小俣大明さん

私たちがイメージしやすいように「脱炭素社会」構築のための姿がイラストで示されました。最後に、個人が取り組めること「COOL CHOICE（賢い選択）」を中心に省エネ家電、省エネ住宅等の紹介でまとめられました。その後、質疑応答も活発に行われ90分の報告会が終了しました。

COP24に日本政府の代表団として参加された方から直接お話を聞いたのが、参加者にとって価値のあることだったのではないのでしょうか。

低炭素杯2019 文部科学大臣賞・オーディエンス賞のダブル受賞！！ 産業廃棄物の杉樹皮を利用した低炭素農業の構築と商品化



長谷川理事長と一緒に記念撮影

宮城県農業高等学校（以下、宮農）が2月8日（金）カルッソかわさき（神奈川県川崎市）で開催された「低炭素杯2019」で文部科学大臣賞・オーディエンス賞のダブル受賞の快挙を成し遂げました。「低炭素杯」とは学校・非営利団体・企業自治体等が地球温暖化防止に取り組む活動を発表し、日本一を競う大会です。今回で開

催9年目を迎え、全国から1,425の応募があり、宮城県からエントリーした宮農がファイナリスト（全国で28団体）として発表しました。

「宮城スギを守って欲しい」きっかけは宮城県黒川森林組合からの連絡でした。産業廃棄物として処理されていたスギの間伐の樹皮を短時間での堆肥化、さらに生育試験では成長が促進されることが判り商品化につながりました。さらに楽天球団と連携して、球場楽天命パークに隣接した会場にバジル栽培コーナーを設け、多くの方にこの取り組みを知ってもらう機会を提供しました。

取組の内容だけでなくプレゼンも観衆を引き付けるものでした。ダブル受賞は納得です。



オーディエンス賞の景品はハンバーガー1年分

地球のために、宮城から考えよう。「みやぎ環境フェスタ」開催！

日 時：1月12日（土）13：00～16：00
会 場：せんだいメディアテーク1階オープンスクエア
内 容：講演会、ブース出展、クイズラリー
参加者：500名

当日は「気候変動に直面する生き物たち～想定される環境変化と影響を知る～」と題して市川大悟さん（公益財団法人世界自然保護基金ジャパン（WWF ジャパン）自然保護室 気候変動・エネルギーグループ所属）より講演していただきました。オーストラリアの人気者「コアラ」はユーカリの葉から水分を摂っています（名前も現地語で「水を飲まない」という意味が由来しているとか）。



WWF ジャパン市川さんによる講演会

しかし、近年異常気象による干ばつで植物が枯死、それにより命を落とすコアラや地面に降りて直接水を飲む珍しい姿も確認

されており、植物や生き物に影響が及んでいることなどお話しいただきました。

また、県内の企業や団体などにブース出展もしてもらいまし



むすび丸と一緒にイベントを盛り上げてくれました

た。特に今回は高校生や大学生も出展し、次世代を担う若い世代の環境への取り組みには、多くの来場者が興味深そうにお話を聞いている姿が見られました！

ブース出展団体（順不同） 仙台管区気象台、東北電力宮城支店、宮城教育大学大気科学研究室、白石工業高等学校、株式会社三創、東北地域エネルギー・温暖化対策推進会議、みやぎ生活協同組合、MELON4R 部会、株式会社北洲、ストップ温暖化センターみやぎ、宮城農業高等学校科学部復興チーム、みやぎ里山応援団 Part II（推進員Gr）、仙石エコ隊（推進員Gr）、学生環境サークル「海辺のたからもの」、宮城県環境政策課・再生可能エネルギー室

※このイベントは、「ダメだっちゃ温暖化」宮城県民会議（宮城県）主催により、MELONが運営団体となり開催しました。



MELONcafe

- 2月9日（土）10：00～13：00
出張MELONcafe「保温調理講座」
場 所：みやぎ生協集会室ほけっと（気仙沼市）
参加者：23名
- 3月16日（土）13：30～14：30
「米粉で簡単♪桜もち&イチゴ大福作り」
場 所：みやぎ生協501集会室
参加者：15名

MELONcafe プチ講座は参加者同士が楽しく交流しながら、環境についてのプチ情報を知ってもらう場です。3月は毎年恒例となった桜もちとイチゴ大福作り。桜もちは道明寺粉、イチゴ大福は白玉粉を使用しました。2017年度の日本の食糧自給率は38%（農林水産省のWEBサイトより）。米粉を使った製品を消費することで食糧自給率アップに貢献でき、なんと一日あたりに食べるご飯の量を一口（17g）増やすだけでもよいそうです！

今年は親子での参加が多く、小さな子どもたちに「ご飯を残さず食べようね！」と呼びかけました。が、やは

り桜の葉っぱの塩漬けはまだ大人の味のように、親御さんが笑いながら代わりに食べていました。「食べ物は残さず食べきる！そうすればごみも減るし、お米を食べれば食料自給率も上がる」そんなお話をしながら春の和菓子などを皆でおいしくいただきました。

また「出張MELONcafe」として、気仙沼市で地元の食材を使用し、省エネと地産地消を推進するための保温調理講座を実施しました。メニューは「気仙沼市大島産の牡蠣を使ったオイスターチャウダー、洋風牡蠣ごはん」。保温調理は余熱を利用することで火にかける時間が少なく済み、二酸化炭素の削減になります。保温調理の有効性や手軽さを知ってもらうことができました。

レシピを知りたい方はMELON事務局までお問い合わせください。



大福作りの実演中♪ じっと見つめる子ども達

「第27回広瀬川流域一斉清掃 にMELONも参加します!」

要申込!

今年初めて、広瀬川流域一斉清掃の開催場所に「荒浜」が新しく登録されました。MELONは荒浜の地元の方々と一緒に参加します。皆さんもお近くの清掃場所に登録して、広瀬川をきれいにしませんか?

主 催：広瀬川1万人プロジェクト実行委員会
日 時：4月20日（土）10：00～12：00
場 所：荒浜海岸（New! MELONが担当します）
作並 澁橋 大橋 宮沢橋 千代大橋
関上海岸

参 加 費：無料

申込方法：氏名（ふりがな）、連絡先（住所、TEL、FAX、E-mail）、参加会場、参加人数をご連絡ください

申 込 先：広瀬川1万人プロジェクト実行委員会
<http://hirosegawa-sendai.org>
または、希望する会場の各担当者まで

◆荒浜海岸 TEL：022-276-5118（MELON事務局）

◆その他 TEL：080-7004-4932（実行委員会事務局）



荒浜の海岸をきれいにしよう!

編集後記

■毎年悩まされる花粉症。自分が反応するのはスギ花粉だけのはずなのですが、気候変動の影響が最近違う時期に反応することが増えた気がします。とりあえず適応策を考えるしかないでしょうね。（小林）

■一食の栄養価を上げるために、無農薬・無化学肥料の玄米ご飯を食べるようになりました。人生100年時代、あと50年元気に生きたい!でも、運動不足が悩みです。ゴボゴボ…。（高橋）

■住んでいるマンションの大規模修繕工事が始まりそれに合わせてベランダの植物たちが引っ越し中。緑や花が無くて寂しい!緑と花を求めて犬と一緒にお出掛けをいっぱいする予定です!（吉田）

MELON イベント情報

これから開催を予定しているイベント・会議をご紹介します。

各イベント参加者を募集しています。詳しくはMELON事務局までお問合せください。

※会員以外の方も参加できます。

4/11（木）	情報センター 例会
4/20（土）	「第27回広瀬川流域一斉清掃」 荒浜にて清掃活動
4/21（日）	「新緑祭」にブース出展
4/24（水）	「仙臺農塾 Vol.7 第3回田尻どいちからお届け 優しい牛乳のフレッシュチーズ」開催
5/9（木）	4R 推進部会 例会
5/22（水）	みやぎ里山応援団 例会
5/23（木）	自然エネルギー等普及プロジェクト 例会
5/26（日）	「生ごみ堆肥化ベランダ園芸講座（仮）」開催
6/1（土）	「MELONcafe プチ講座 海洋ごみをへらそう! Let's ビーチコーミング! 小物づくりワーク ショップ in 荒浜」開催
6/5（水）	「仙臺農塾 Vol.7 第4回実り豊かな里山の作物と農泊」開催
6/22（土）	「田んぼの見学会（仮）」開催
6/23（日）	「環境マルシェ」にブース出展

※日程や内容の変更、上記以外にもイベント開催する場合があります。ご了承ください。

〈会員状況〉

597 名

法人 63

任意団体 9

個人 525

2019年2月28日現在



ボランティアポイントカード制度 をご活用ください

会員の方には、「MELON ボランティアポイントカード」を発行しています。部会・プロジェクトの例会出席、作業やイベントでのお手伝いをすると、1ポイント差し上げます。5つ貯まると1,000円分のMELON協力商品券と交換できます。

MELON 協力商品券とは

みやぎ生協、日専連仙台で発行している商品券です。金額の一部がMELONに寄付され、環境保全活動にいかされます。宮城県内の日専連加盟店及びみやぎ生協の各店舗でご利用になります。

発行元 公益財団法人 みやぎ・環境とくらし・ネットワーク（MELON） Miyagi Environmental Life Out-reach Network

〒981-0933 仙台市青葉区柏木1-2-45 フォレスト仙台5F

★事務局 TEL 022-276-5118 FAX 022-219-5713

★情報センター TEL 022-301-9146 FAX 022-219-5713

★ストップ温暖化センターみやぎ TEL 022-301-9145 FAX 022-219-5710

E-mail melon@miyagi.jp URL <https://www.melon.or.jp/melon/>

落丁・乱丁の場合は、MELON 事務局までご連絡ください。



この印刷物は、輸送マイレージ低減によるCO₂削減や地産地消に着目し、国産米ぬか油を使用した新しい環境配慮型インキ「ライスインキ」で印刷しており、印刷用紙へのリサイクルが可能です。

※ MELON 情報紙は再生紙を使用しています。